

# 関西スクエア

朝日21関西スクエアは、さまざまなテーマを議論して関西から問題提起をしていくことを目的とした会員組織です。1998年に発足し、朝日新聞大阪本社に事務局があります。各界で活躍している多くのみなさんの参加をいただき、シンポジウムや公開対談の開催にも取り組んでいます。

朝日21関西スクエア賞は関西スクエアの発足10周年を記念し、2008年度に設けました。関西を足場に、学術、文化、芸術、経済、芸能、スポーツ、市民運動などの分野で活躍する若い人材が対象です。関西スクエア企画運営委員と朝日新聞社でつくる選考委員会が受賞者を決めています。

## 歴代の受賞者(敬称略。肩書は当時)

**第1回(2008年度)**  
神谷之康 (脳科学者・国際電気通信基礎技術研究所脳情報研究所室長)  
＝脳の活動から心の状態を解読する研究

竹下・ルッジェリ・アンナ (京都外国語大学講師)  
＝西洋人の視点を生かした禅研究や武道の実践

**第2回(09年度)**  
高橋智隆 (ロボ・ガレッジ社長、東大特任准教授)  
＝人間型ロボットの研究開発

**第3回(10年度)**  
西光慎治 (奈良県明日香村教育委員会主任技師)  
＝築平字塚古墳の発掘調査

**第4回(11年度)**  
山田真澄 (京都大学防災研究所助教)  
＝「緊急地震速報」の研究

選考委員(敬称略)  
栗本智代(大阪ガス エネルギー・文化研究所 主席研究員)

後藤正治(ノンフィクション作家)  
佐伯順子(同志社大学大学院教授)  
広瀬茂夫(日本総合研究所関西経済研究センター所長)  
鷲田清一(哲学者、大谷大学教授)  
＝以上、関西スクエア企画運営委員  
阿部圭介(朝日新聞大阪本社編集局長)  
安東 建(同局長補佐)

この特集はデジタル版でもご覧いただけます。



わした・きよかず  
哲学者、大谷大学教授。  
1949年京都市生まれ。  
2007～11年に大阪大学総  
長。著書に「『聴く』こと  
の力」「くひと」の現象  
学」など。

上田 気持ち声をにするのは大事なことです。そこまで至りません。

鷲田 上田さんは不屈の人と

鷲田 芸術大学の受講者は500人以上だそうですね。どんな人が来られていますか。

上田 8、9割が釜ヶ崎のおっちゃんたちです。60代が多いです。みんなおっちゃんたちの学ぶ姿勢に励まされています。



うへだ・かなよ  
詩人。1969年奈良県生まれ。互いにインタビューをしながら相手についての詩を作るワークショップなどにも取り組んできた。

### 第5回関西スクエア賞

関西で活躍する新進の研究者や活動家を応援する朝日新聞社の第5回朝日21関西スクエア賞に、詩人で釜ヶ崎芸術大学を主宰する上田假奈代さん(43)が選ばれました。日雇い労働者と詩を書いたり、哲学を論じたり。この学びの場で見えてくるのか。上田さんと関西スクエア企画運営委員で哲学者の鷲田清一さんが語り合いました。

## 鷲田「吸い込む力」すごい

## 表現 安心な場でこそ 上田



お手本を見ながら習字。講師のアドバースで見違える筆づかいに「いいですね。私も大阪西成区、コッコーム提供



鷲田 いい話ですね。哲学でも議論をすれば、むきになる人も多いいです。演説するとか、人を攻撃するとか。だからそういうわらかい空気が生まれるのはすごいと思います。

上田 釜ヶ崎で活動するまで、たとえばアフリカで飢饉やテロで亡くなった人がいるという新聞記事を読むと、悲しくてただ泣いているだけ、というところが自分にはあった。でも今

鷲田 上田さんは理念とか社会的要請とかじゃなくて、人間関係を自分の皮膚感覚で広げていった。そういう「吸い込む力」がすごい。

上田 今、学ぶ方がいい会社に入るためとか、成功するためとかというように、手段や道具になってしまっていて、貧相だなぁと感じます。だけど、釜ヶ崎芸術大学のおっちゃんたちからは、何かのために学ぶというより、知りたい、したことがないことをしてみたいという心が見える。すばらしい。

昨年11月19日にあった初議

### 釜ヶ崎芸術大学主宰・上田假奈代さん

釜ヶ崎(あいらん地区)で昨年11月から今年2月まで開催。美術家の森村泰昌さんや哲学者、天文学者ら多彩な講師を招き、42コマの授業を開いた。労働者やホームレスら延べ約570人が授業を受けた。

コッコームは2003年、大阪市の新世界を拠点に結成。ホームレスの表現活動支援などを手がけてきた。04年にNPO法人となり、08年に事務所を隣まちの釜ヶ崎に移した。